

令和3年12月20日

芦屋市企画部市民参画課
課長 川口 弥良 様

(あしや市民活動センター指定管理者)
特定非営利活動法人あしや NPO センター
事務局長 橋野 浩美

つきいちよるごはん事業報告書

- 1 日時：令和2年12月11日（土）13：30～16：00
- 2 会場：リードあしや 会議室CD
- 3 担当：高田
- 4 参加者：14人（会場11人 講師1人 協力団体2人）
- 5 事業詳細
 - (1) 目的：親子で集いワークショップなどを通じて交流し、息抜きの場をつくる。
 - (2) 内容：
 - ・前半：親子ワークショップ「思い出の服や布を使って、親子でクリスマスグッズを作ろう！」 講師：ママプレイス
 - ・後半：親「来年にむけて！夢を叶えるワクワクリストを書いてみよう」
講師：ママプレイス
子ども：「どんぐりごま競争と射的で鬼退治」 協力：ポイエシス
- 6 アンケート結果：4件
 - (1) 年代：大人30代1人 40代3人 /子ども7歳2名、6歳1名、2歳1名
 - (2) 満足度：満足4件
 - (3) 親子ワークショップ「思い出の服や布を使って、親子でクリスマスグッズを作ろう！」
 - ・思いでの布を娘が選ばず使えなかったのは残念でしたが、娘も楽しんで作っていました。
 - ・サイズアウトしたお洋服がなかったけど布を用意していただいていたので素敵なハンドメイドができました。思ったより簡単にできたし、可愛くてテンション上がりました。
 - ・思い出の布が可愛く返信して楽しかったです。
 - ・女の子向けのイベントかなと思っていましたが、自分の好きなキャラクターのアプリケを作りたくて、熱心に取り組んでいました。むずかしいものでも、先生が子どもの気持ちに寄り添ってアドバイスなどしてくださり、本人も納得のいく、オリジナルな作品になりました。親子ともに楽しく、良い経験をさせてもらいました。参加できてよかったです。

ママ向けミニ講座「来年にむけて！夢を叶えるワクワクリストを書いてみよう」

- ・やりたいことは、やるべきことの後回しにしてなかなか実行できていませんが、楽しいことを考えて習慣づけてみたいと思います。
- ・待つだけでワクワクするボールペンまで使わせていただいて楽しい気持ちになりました！
- ・日々に追われる毎日に潤いができたらいいなと思います。
- ・（子どものための選択ではなく）自分がワクワクする気持ちを大切にしよう、そこから少しずつ可能性が広がり、縁や未来に繋がっていく、という先生の経験談からのメッセージが印象的でした。このワーク後、「自分の好きなことは何だろう」という気持ちで過ごすようになり、自分探しを楽しんでいます。短い時間でしたが、先生の誠実なお人柄を感じる事が出来、今の自分にとってもためになる講座でした。素敵なお土産（自分で選んだ糸の入ったボールペン）もいただき、嬉しかったです。

子ども向けゲーム「どんぐりごま競争と射的で鬼退治」

- ・とても楽しめたようで、家でもごきげんに遊んでいます。
- ・娘は2歳なので難しいかな？と思いましたが、工夫して楽しませていただいたみたいで娘も凄く喜んでいました。お土産もたくさんいただき本当にありがとうございました。
- ・とても楽しかったようで大盛り上がりでした。
- ・開始のお声がかかる前に、子ども達が射的を見つけて始めており…夢中で遊んでいて、とても楽しそうでした。割り箸で作った鉄砲を気に入っており、週末もずっと遊んでいました。トナカイの紙袋もかわいくて、よかったです！

今後参加してみたいことや、今の関心ごと、お困りごとなど

- ・またこういったハンドメイド企画に参加したいです。子供と一緒にお菓子作りとかもあればやってみたいです。
- ・お菓子教室
- ・芦屋の歴史・遺跡探訪ツアーなど、親子で散歩しながら楽しく学べる講座

その他感想：講師「芦屋ママプレイス」石井ひとみさん

「芦屋ママプレイス」は、ハンドメイドしながら知らないママ同士がワイワイお喋りし、悩みや子育てあるあるを共有できるような交流の場を目指して活動しているので、「つきいちよるごはん」のママ同士であたたかいコミュニティを作りたいとのコンセプトと共通しているなあと感じます。親子の時間を一緒にハンドメイドすることで楽しく過ごして頂き、他の親子との交流を持てたのが、とても幸せなひとときでした。ありがとうございました。

7 振り返り

- ・プレで集まったメンバー4組とフォームから申し込みのあった1組での開催となったが、子どもたちの年齢差を感じることなく終始楽しんでいった。
- ・今回、親子で取り組む場と親と子が同じ部屋で別の企画を楽しむ場を作ったが、親子のワークショップでは一緒に細かい作業に取り組み、出来上がったものを一緒に喜んだり子ども同士で見せあったりする姿が印象的だった。
- ・ママ向けミニ講座では各自好きな糸を選んでハンドメイドでペンを作り、ワクワクする気持ちを大切にしようという講師のお話をママ同士談笑しながら受講していた。
- ・子ども向けゲームは協力団体としてポイエシスが担当。前半の親子ワークショップの間にゲームの準備と即席クリスマスツリーが出来上がり会場を盛り上げていた。全て手作りのゲームで、会場で遊んだあとはお土産として持ち帰り子どもたちも満足していた。

8 アンケートから感じたこと

- ・なかなか集まるのが難しい状況が続いている中、仲間と集まる場を探している親子は多く、会って話すことの大切さを感じた時間だった。来年度からは偶数月第3金曜日に定期開催し、各回様々な講師を招き、協力団体の活躍の場として、また様々な親子が楽しく過ごせる地域に寄り添った集いの場に繋げていきたい。

以上



前半のワークショップの様子



前半のワークショップの様子



後半のママ向けミニ講座の様子



後半の子ども向けゲームの様子